

編集後記

サッカー・ワールドカップロシア大会が始まり、予想外の展開で初戦を大金星で飾った日本代表。大会前の沈鬱ムードとは打って変わって、日本中が盛り上がっています。本稿執筆中の現在、見事勝ち越しゴールを決めた鹿児島出身の大迫選手は、連日ニュースで話題になっています。さて本号が届く頃、果たして決勝トーナメントの行方は・・・頑張れ！サムライブルー。

誌上ギャラリーには永田先生から大分県くじゅう、平治岳のミヤマキリシマの写真をいただきました。まさにピンクの絨毯が彼方まで続いているようです。

「論説と話題」には、このたび鹿児島市医師会会長にご就任された上ノ町先生からご挨拶をいただきました。「議」をつくして「和」をもった医師会運営で、存分にご活躍いただきたいと思えます。新しく役員にご就任された先生がたからも、ご挨拶をいただきました。よろしく願いいたします。また、ご退任される猪鹿倉前会長はじめ役員の方がたにおかれましては、長らくご尽力いただきまして有難うございました。

「くすり一口メモ」は、ドライアイについてです。ドライアイの治療に用いられる2種類の点眼薬の比較、眼表面の層別治療、また点眼薬の正しい使用の重要性が記されています。

「学術」には、市立病院の川浪先生からは、繰り返し発症し治療が困難であった細菌性髄膜炎が、頭部外傷に起因する髄液鼻漏との関連が判明して治療ができた症例を、また外科医会春季例会からは「興味ある症例」のテーマで5編の発表が提示されました。

「医師会病院だより」では、消化器内科と内視鏡検査室が紹介されました。消化器内科は医師数の減少で、一旦検査や治療の件数が減ったものの、今年の常勤医増員により診療実績は向上しています。内視鏡検査室は急患も含めて幅広い検査を実施しており、昨年からは女性医師による内視鏡検

査も始まり、死亡率が高い女性の大腸がんの早期発見が期待されます。患者さんのご紹介をお願いいたします。

古庄先生からは中央アメリカ、ユカタン半島の付け根、カリブ海に面したベリーズという国の記念切手をご紹介いただきました。小田原先生のシリーズ医療事故調査制度とその周辺(17)では、「医療事故調査制度の施行に係る検討会」が決裂や調整など幾多の苦労を経て、ようやくとりまとめに至った経緯が詳述されています。武元先生の連載「アスリートの夏が来た」では、中学・高校生アスリートに起こりうる貧血の理由と対策が記されています。私も学生時代に運動部の練習後に見た、ワイン色の尿を思い出しました。もはや精神論ではなく理論的トレーニングが行われるべき所以です。「リレー随筆」には鹿児島大学病院で研修中の市地先生から、研修医生活での日々の奮闘ぶりをご寄稿いただきました。これから先もずっと続く長い「先生」人生、ご健闘をお祈りいたします。

「各種部会だより」には鹿児島市内科医会総会及び講演会での鹿児島大学大学院心臓血管・高血圧内科、大石教授による糖尿病治療についてのご講演、鹿児島市医師会勤務医会総会・研修会での国立長寿医療研究センター、中村先生のアルツハイマー病についてのご講演、鹿児島市外科医会総会での鹿児島大学産科婦人科、小林教授のロボット手術についてのご講演などの様子が報告されました。

「鹿市医郷壇」には会員の皆様の力作をお待ちしております。奮ってご投句をお願いいたします。

さて、ワールドカップも終盤となり、梅雨が明けると本格的に暑い夏の到来です。ビールが美味しくなりますが健康には留意して、来るべき8月に備えましょう。

(編集委員 森岡 康祐)